

福岡空港の運営委託について

- ▶ 福岡空港は、平成31年4月より福岡国際空港(株)による運営が開始。
- ▶ 今後、「比類なき東・東南アジアの航空ネットワークを有する、東アジアトップクラスの国際空港」を目指し、エアライン誘致、エアポートシティの実現、地域共生など民間の創意工夫を活かした運営が進められる予定。

福岡空港の将来イメージ

〔 出典：福岡エアポートHDグループ提案概要 〕

- 東・東南アジアの就航国数は日本一 14カ国・地域、51路線に就航
- 旅客数3,500万人（国際：1,600万人、国内：1,900万人）、100路線（国際：67路線、国内：33路線）

○将来の国際線地区イメージ



○将来の国内線地区イメージ



航空ネットワークの将来像	現状	2023年度	2048年度
東・東南アジア	8カ国 15路線	11カ国 22路線	14カ国 51路線
国際路線 (東・東南アジアを含む)	10カ国 18路線	13カ国 26路線	25カ国 67路線
国内路線	23都市 26路線	23都市 26路線	30都市 33路線

地域との共生に向けた取組

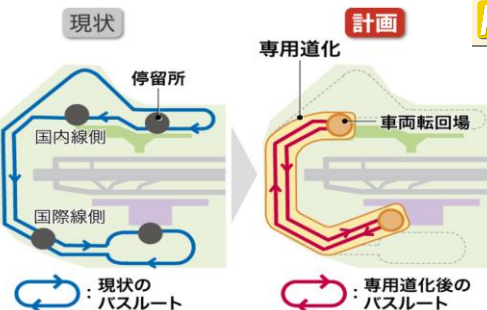
- 地域共生事業の専門部署の設置
- 周辺地域との対話・交流の機会に積極的に参加
- 丁寧な情報発信

「情報ひろば」
空港機能拡充の取組み、航空機騒音・飛行経路状況、福岡空港の歴史を紹介



利用者利便向上への取組

- 空港サービスの質向上に向けた3F、*Free*「楽に」、*Fast & Seamless*「早く」、*Fun*「楽しく」を推進し、将来の変化に*Flexible*「しなやかに」対応



Free 施設・設備の充足率	100%
Free 内陸旅客ビル施設間移動時間	5分以内
Fast 出発手続き時間	10分以内
Fast 観光地等へのダイレクトバス	19路線
Fun エアポートシティの利益	現状の2倍

- 内陸連絡バスの専用道化等により旅客ビル施設間の移動時間を5分以内に短縮



- 国際線地区にバスターミナルを新設し、九州全域及び広島以西とのダイレクトアクセスを強化(14路線⇒26路線)
- 博多駅との結節を強化
(往復42便/日 → 最大往復168便/日)

空港容量の拡大への取組

- 増設滑走路の供用開始後に、国が地元の理解を前提に増枠を検討している45回/時間以上(50回を目標)の滑走路処理容量の拡大を可能とする環境整備

